

大気汚染物質の妊娠・分娩および出生児に及ぼす影響に関する研究

—妊娠高血圧症候群発症との関連を中心に—

◆はじめに

大気汚染物質と心血管系疾患との関連が報告されています。血管系の影響が考えられる妊娠高血圧症候群発症等への可能性も危惧されます。しかしながら、妊娠に及ぼす影響に関しては報告が極めて少ない状況です。今回の研究では、大気汚染物質が妊娠高血圧症候群をはじめとした妊娠合併症および胎児へ及ぼす影響を検証します。

◆対象

日本産科婦人科学会が実施している周産期登録データベースに2005年から2012年までに登録されている方を対象としています。平成17年1月1日より平成24年12月31日までに登録された方を対象としており、対象者数は約5万人/年で合計約40万人になります。

◆研究内容

周産期登録データベースの登録内容と国立環境研究所環境数値データベースにある大気汚染物質の情報をを用いて、大気汚染物質と妊娠合併症(妊娠高血圧症候群、切迫流産、前置胎盤など)と児合併症(形態異常、早産、低出生体重、性差など)との関連について解析を行います。

◆個人情報の管理について

本研究は、「疫学研究に関する倫理指針」にもとづき患者さんの個人情報の保護に努めています。使用する情報にはもとより氏名の記載はありません。また、本研究により得られた結果は学会や論文で発表する場合がありますが、その際、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

◆データの二次利用について

本研究において得られたデータなどは、九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学において、同分野教授 加藤聖子の責任の下、研究期間終了後3年間保存した後、登録番号等を消去し廃棄します。上記のデータ等を二次利用する場合には、将来新たに計画・実施される医学研究が倫理審査委員会で承認された後に利用します。

◆研究期間

研究期間は承認日より平成30年3月31日までです。

◆医学上の貢献

大気汚染物質と妊娠合併症(妊娠高血圧症候群など)との関連について、報告は少なく、特に日本では調査がなされていません。そのため、本研究の結果は、環境保健(大気環境)の政策をたてる上で貴重な資料となりえます。

◆研究機関

九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学 教授 加藤聖子(責任者)

九州大学環境発達医学研究センター・特任准教授・諸隈誠一

九州大学病院総合周産期母子医療センター・講師・福嶋恒太郎

共同研究者:

国立環境研究所・環境健康研究センター・センター長・新田 裕史

国立環境研究所・環境健康研究センター・環境疫学研究室・主任研究員・上田佳代

国立環境研究所・環境健康研究センター・環境疫学研究室・研究員・道川武紘

国立環境研究所・環境健康研究センター・環境疫学研究室・研究員・竹内文乃

◆連絡先

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 コラボステーションⅡ605号 九州大学 環境発達医学研究センター

電話: 092-642-5105 担当者: 諸隈誠一